

第2回 邑南町地域コミュニティのあり方検討委員会 議事録（要約版）

日時：令和4年7月11日（月） 18：30～20：30

場所：田所公民館 大ホール

出席者：委員16名（作野広和委員長、日高輝和副委員長、井上英司委員、古田五二嗣委員、小田博之委員、品川隆博委員、橋本茂委員、森脇和代委員、鳥居清枝委員、和田康司委員、日高弘之委員、藤本順子委員、小笠原文夫委員、有井貞之委員、瀧田均委員、皆田潔委員）※2名欠席

事務局7名（田村哲（地域みらい課長）、大賀定（総務課）、小笠原誠治（福祉課長）、三上徹（生涯学習課長）、湯浅孝史、上田直明、秋本啓太（地域みらい課））

1. 開会あいさつ

作野委員長：1回目では非常に真摯な議論が交わされた。1年前から役場と私とでプロジェクト会議として検討してきた、主にはシステムの改変を意識していたが、委員の皆さんからはより本質的な対策をすべきという意見がたくさん出た。この検討委員会で、どこまで突っ込んだ報告書とするかは検討が必要だが、今回もご意見をいただきたい。

2. 自己紹介（前回欠席者）

3. 事務局資料説明

【資料1】今年度の委員会の全体像と、報告書の大まかな内容の予定について説明

作野委員長：4. 町の支援の部分で、活動拠点についても入れ込む必要があると思う。

【資料2】地域コミュニティ再編の可能性について説明

4. 意見交換（委員の発言を事務局で集約）

（1）地域コミュニティに望む役割

○集落に望む機能

- ・集落は地縁組織であり、心でつながっているものだと思う。一方、社会システムとしての面もあり、その両立、バランスが必要だと思う。
- ・常会はよいことだと思う。機能もだが、人間関係を維持できるという点で、集落はあったほうがよいと思う。
- ・地域コミュニティに望む役割として、集落では隣での支え合いだと思う。

- ・集落の人数が減ると、常会での住民同士の意見交換ができなくなるし、役の担い手もいなくなる。
- ・集落は農業、宗教、葬式などで協力するということで成り立っていたと思うが、時代が変わり、集落の機能が減ってきている。その中でも集落に望むものは、①近所、隣の親睦を維持する機能 ②資産を管理する機能（集会所の管理、防犯灯の管理） ③災害などいざというときの助け合いの体制。
- ・集落に加入しない人もいる中で、集落を前提にした行政システムには無理が生じてくるのではないか。
 - 事務局：集落に入っていないなくても、戸数には入っているので行政協力員が配りものは配っており、情報が届かないということはない。行政側が直接郵送しているところもある。

○集落より広域な組織に望む機能

- ・農事組合法人や地区別戦略では、女性や地域外に住んでいる人が入り、意見を出してもらっている。しかし、行政協力員などの役は戸主が中心である。農事組合法人や地区別戦略組織を1つにすれば、地域外に住んでいる人や女性の意見を取り入れやすいと思う。
- ・自治会の機能は、地域の課題を解決することだと思う。しかし、小さくなってきて自治会だけでは取り組みなくなってきているので、地区・公民館単位で安心安全な地域を作る取組をしていく段階に来ていると思う。

(2) 行政が地域に「人」ではなく「機能」を一括で依頼することにより、どのような影響が考えられるか？

○作業量が増える

- ・現在集落に直接依頼しているものを上部組織に依頼することで、ワンクッション増えて作業量が増えるのではないか。
 - 事務局：人が少ない地域では、人が少ないところを補うなど、地域で自主的に割り振りをしていただけるようになると思う。常会で配布する形ではなく、配布のみにすることも考えられる。

○人口減少に対応するために、見直しは必要

- ・システムを変えないと、人が減って今までやってきたことができない状況になっている。
- ・自治会はこれまで、意見をまとめる機能を果たしてきたが、人口減少に合わせて見直しをしていく必要がある。

- ・ 上部組織で受けた機能を集落に割り振っていく仕組みは地域で考えないといけない。具体像は地域によって違う形になると思う。

○この提案は邑南町独自のもの

- ・ 人の依頼から機能の依頼への変更は、どこかで提唱されているものなのか。
- 事務局：役の担い手の減少への対策として独自で考えたもの。あまり事例はない。
- 北広島町の豊平というところで、役を減らす取組をした。

(3) 本当に人がいない集落・自治会の機能補完はどのような形が望ましいか？

○地域運営組織で機能補完

- ・ 機能を自治会に回すのが難しい地区もある。地域運営組織で集落サポートセンターのようなものを作って機能を集約し、集落の会計管理も代行してあげるとよいと思う。役場から依頼される配りものも、業務委託として受け、人を雇って配っていくというやり方を考えている。
- 住民同士の意思疎通や合意形成の機能が失われるのを防ぐために、サポーターが集落の常会長と緊密に連絡を取って、地域の意見をなるべく聞く。
- ・ 自治会には活性化補助金が出ているが、そうではなく、作業を業務委託という形で受けてこなしていくという方向がよいと考えている。

○関係人口活用の可能性

- ・ 地域外に住んでいる家族などに、地域の役をやってもらうことも考えられるのではないかな。配りものは難しいだろうが、目的型組織の役員ならできると思う。関係人口で1つの集落の役員体制ができたなら面白いし、邑南町の注目を集める部分にもなる。

(4) その他

○集落に加入していない人→参加呼びかけが重要

- ・ 地域に住んではいないが家はある、自治会や集落には加入しないという人が増えている。
- ・ 集落に新たに加入するケースはあまりないが、脱退する人が多いのが現状。集落に加入してなくても自治会には入ってほしいとお願いしてもなかなか入ってもらえない。自主防災組織には必ず入ってもらうようにしたいと思っている。
- ・ 人はいるが担い手が少ないところの対策の方が大事だと思う。体制や枠組みだけの見直しでは将来的に難しくなる。コミュニティの一員だと気づいてもらう取り組みは同時進行が必要だと思う。

○まちづくり基本条例について

- ・まちづくり基本条例について、目標に対する実態が見えてくるとよいと思う。
→事務局：まちづくり基本条例の検証についてはこれまでされていない。この会議もまちづくり基本条例に基づいて議論されるものとする。制定から期間が経った条例なので、時代に合わせて必要があれば改正することも考えられる。
- ・まちづくり基本条例では、集落と自治会が地域コミュニティと定義されている。地域の代表性は自治会なので、地区レベルの新しい組織などが出てくると時代に合わせて変えていく必要があると思う。

○行政協力員について

- ・石見地域では行政協力員ではなく班長という呼び方をしているが、同じものという認識で合っているか？
→事務局：石見地域の中で慣例として班長という呼び名になっているのだと思うが、役場としては「行政協力員」としてお願いしている。
- ・旧石見町では自治会を設置して集落とみなしたはずだが、従来の集落に役場が役を割り当ててきたのが問題。
- ・行政協力員は役場からの情報を伝えてくれるが、集まりがあるのか？
→事務局：年に1回、自治会長会議に集まってもらい、施策を説明している。そのほか、毎月の配布物と一緒に、文書で連絡をしている。中には、自治会の定例会議に出席されている行政協力員もいる。

○自治会再編の補助について

- ・自治会再編に向けていろいろな委員会が立ち上がると思うが、事務費的な補助はないのか。
→この委員会は、方向性を検討するもので、まだ再編するとも決まっておらず、お答えできない。他の自治体では、再編するとなったらお金は出している。
- ・日貫はもともと活性化協議会があったものを衣替えした形なので、活性化協議会の組織再編検討委員会として議論を進めた。

まとめ

作野委員長：今日の段階での整理をする。

①集落の存在をどう見立てるか？

→人の心のつながりをもとにした組織であるが、集落に機能が付与されると人単位になる。人の依頼から機能の依頼へという考え方の整理は大事な論点。ご指摘があっ

たように、かえって手間が増えるだけなのではないかとか、一方で時代の変化とともに変えていく必要があるのではないかという観点で、重要なキーワード。

②機能の受け皿は？

→集落より広域の範囲を受け持つ自治会が考えられるが、自治会も疲弊しているため、さらに広域の地区レベルで受けることが想定される。

③地区レベルの組織の形は？

→単に自治会をくっつけるのではなく、地域運営組織のようなものが想定されるのではないか。関係人口など様々な人が関われる組織は自治会では難しい。

私の見通しでは、おそらく報告書を実現するためには、12地区あれば12通りの対応が出てくる。一般論ではなく、12通りのあり方も見据えて整理する方がわかりやすい。次回、具体像で議論していきたい。

5. 閉会あいさつ

日高副委員長：長時間にわたり貴重な意見をいただきありがとうございます。自分の地域のことには当てはめたりしながら意見を聞かせていただいた。特に行政からお願いしてきた様々なことについて、今まで通っていたが、本当に必要か、他の方法はないかということを検討しなければならないと思った。

また、「人」がキーワードとして出てきた。どのように活躍してもらうのがよいかということも重要で、人材育成にどのように町として関わっていくのが大事だと思う。人づくりは人件費をかけないといいことにならないと思っている。どのようにして地域運営のためのお金を捻出するかということも一緒に考えていかないといけない。それぞれの地域でやり方は違うかもしれないが、報告にまとめたい。

事務局：7月17日（日）に矢上交流センターでキックオフイベントを予定。

次回は8月22日（月）に出羽公民館で開催する予定。